

令和4年度第3回福島県日本型直接支払交付金第三者委員会議事概要

1 日 時 令和5年2月3日（金）9：00～12：00

2 場 所 ふくしま中町会館 5階東会議室

3 出席委員 荒井委員、猪狩委員、河原委員、田崎委員、山崎委員
(委員長以下五十音順)

4 議 事

(1) 日本型直接支払交付金の令和4年度実施状況について

事務局より多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金の令和4年度実施状況について、資料に基づき説明した。

○意見等

ア 多面的機能支払交付金について

委 員：事務負担軽減の意見交換会の中で、新たな内容はあったか。

事務局：市町村は担当が年度末で変わってしまう場合があるので、新年度の事務が滞りなく進むよう、年度内に実施する事務を明確するなど、スケジュールの見直しを行った。

イ 中山間地域等直接支払交付金について

委 員：スマート農業の取り組みはどれくらいあるのか。

事務局：面積や箇所数は把握できていないが、生産性向上加算を活用して、自走式草刈機による除草や鳥獣害のICT捕獲等に取り組んでいる組織がある。

ウ 環境保全型農業直接支払交付金について

委 員：電子申請を開始したとのことだが、申請はどれくらいあったのか。電子申請になると事務が簡素化されるのか。

事務局：農家の電子申請戸数は把握していないが、今年度は8市町村で電子申請が実施された。タブレット等使って申請するので、紙での申請より迅速に処理できる。

委 員：高齢の農家にとっては難しいところもあると思うので、お手本のようなものがあればいいと思う。

事務局：国が作成したマニュアルがあり、農業者への操作説明会等を行っていくことを市町村と調整しているところである。

委 員：地域特認の炭の投入があるが、炭の生産は多いのか。

事務局：この事業に限らず、県ではカーボンニュートラルを推進しており、炭の投入では、土壌に炭素を貯留する効果が高いので、令和4年度から推進していくこととした。今後、木質バイオマスや処分方法が問題となっている籾殻の有効利用をすすめる必要があり、炭の利用とともに、生産も推進していければと考えている。

委 員：JAの直売で炭などを見かける。家庭菜園などでも使ってもらえるように、お店で、使

い方や効果などを紹介し、農地への「炭の投入」の取組を拡大して行ってほしい。

(2) 中山間地域等直接支払交付金の中間年評価について

事務局より中山間地域等直接支払交付金の中間年評価について、資料に基づき説明した。中間年評価に関して、委員に所見等をいただいた。

○意見等

委員：集落戦略の作成について、市町村に更なる支援を求めているところが多い。市町村の負担軽減となるようなことを国に改善を求めるなどはできないか。

事務局：集落戦略の作成支援は、市町村が中心になってもらわざるを得ない。事務負担軽減については、毎年度県から国に要望している状況である。

委員：集落戦略の作成では、話し合いに使用する集落の地図の作成が困難となっているようだ。電子地図か紙の地図か。

事務局：電子地図や紙の地図など、市町村によってさまざまである。

委員：集落戦略の作成には県、市町村以外の方が支援している場合はあるか。

事務局：農業委員会が入っている場合もある。

委員：中山間地域等直接支払交付金に取り組んでいない地域について、今は協定が無い状況で地域を維持できていたとしても、将来的にはどうなるかわからないため、今後を見通して協定締結の支援を行って行ってほしい。

委員：今後の農地利用や集落機能の維持には、地域に関わる多くの方との連携が望まれる。

(3) 農村地域振興に向けた取組について

事務局より令和4年度の農村地域振興に向けた取組について、資料に基づき説明した。

○意見等

委員：県内には棚田の要件を満たす急傾斜地がまだまだあるということなので、今後も棚田の保全を推進して行ってほしい。

以上